

# Management Club Report

Feb.2014/Vol.134

## Monthly Opinion 《リーダーシップの真髄》

冬は又夏がましじゃと言ひにけり

松尾芭蕉とも親交があったという江戸中期の俳人、上島鬼貫の一句です。暑い夏にうんざりしながら、冬になれば夏の暑さの方がよかったと思うようになるさ、と自分を慰めるような句であると、大雪に見舞われたバレンタインデーの朝日新聞『天声人語』が教えてくれました。

記録的な大雪が2週続けて首都圏を襲いましたが、この2月に入ってから寒さのもとでは、ちょっとした運動をしようにもなかなか気持ちが充実せず、暖房の効いた部屋のなかでテレビに映し出されるソチオリンピックでの日本人選手の活躍に見入ることを専らにしていました。

「早く太陽の下で汗を流し、爽快なシャワーを浴びた後で冷えたビールを飲みたい！」そんな思いに駆られていると、あのうだるような暑さの夏、10月になってもいつまでも暑かった夏、「いつまで暑いんだよお！」と毒づいていたあの夏がつい恋しく感じてしまします。

さて、そんな夏の到来が待たれる気持ちには、実はもうひとつ理由があります。今年の7月13日に開催致しますサマーミーティングです。毎年、歯科とは無縁の著名人を特別ゲスト講師にお招きして参りました。一昨年は『希望学』の弦田有史氏、昨年は『散るぞ悲しき』の梯久美子氏、さらに遡れば、サマーミーティングではありませんが、アフラック相談役の松井秀文氏、早稲田大学ラグビー蹴球部元監督の中竹竜二氏と幅広い分野から多彩な講師をお招きして参りました。

今年は、昨年の梯久美子氏と同じノンフィクション作家として活躍中の門田隆将氏にお話し頂くことになっております。テーマは『すさまじいリーダーシップ／想定外の状態にリーダーはいかに行動したか』です。戦時中における指揮官のリーダーシップや、現代の会社組織におけるリーダーの行動などをとりあげては、独自の正義感に基づく感動的な著作をいくつも世に送り出しています。今月は、門田隆将氏と、当社講演会に初登壇頂く斎藤和重先生のご紹介も兼ねながら私なりの『リーダーシップ』について所感を述べ、サマーミーティングの序章にしたいと思います。皆様方がリーダーシップについて考えるきっかけとなり、よき研究材料になればと願っています。

### 1

## 若き日に体験した見事なリーダーシップ

### 若きエリート所長が示したリーダーシップ

私がリーダーシップについて語るならば、それは若い頃の体験のなかに恰好の材料を求めることができます。縁あって、大阪に本社を持つ中堅の建設会社に就職した私は、二度目の任地として35億3,500万円という当時としては全社